

平成29年度第1回 知床世界自然遺産地域
適正利用・エコツーリズム検討会議
議事録

日時：平成29年10月16日（月）13：30～16：30
場所：羅臼町公民館 2階 大集会室（ホール）

会 議 次 第

開会

あいさつ

議事

1. 知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況
2. 実施部会からの報告
 - (1) 赤岩地区昆布ツアー一部会（報告）
 - (2) 外国人旅行者向け情報発信の強化部会（報告）
3. 個別部会からの報告
 - (1) 厳冬期の知床五湖エコツアー事業
 - (2) 知床五湖地区における取組
 - (3) カムイワッカ地区における取組
 - (4) ウトロ海域における取組
 - (5) 知床沼における取組
4. 長期モニタリングについて
 - (1) 長期モニタリング計画の見直しについて
 - (2) 平成28年度利用状況調査の結果について
5. 中期的な課題
 - (1) 知床国立公園利用のあり方に関する検討について
 - (2) 構成員以外の検討会議の参加について
6. その他
 - (1) 第41回世界遺産委員会決議の対応について
 - (2) 適正利用・エコツーリズム検討会議関係設置要綱等の改訂について

閉会

事務局 環境省 石川

これより平成 29 年度第 1 回知床世界自然遺産地域適正利用エコツアーリズム検討会議を始める。羅臼町鈴木副町長よりご挨拶いただく。

羅臼町副町長 鈴木

皆様こんにちは。ただいま紹介いただいた羅臼町副町長の鈴木です。どうぞよろしくお願ひします。本日は第 1 回の世界自然遺産地域適正利用エコツアーリズムの検討会議を当町で開催を頂き心から歓迎申し上げます。また、午前中の世界自然遺産地域連絡会議より引き続き出席されている皆様においては大変ご苦勞様です。皆様方には日頃より知床の適正利用及び様々な分野において、ご指導を賜っておりますことに改めてお礼申し上げます。

赤岩地区の昆布ツアーについては、当町の新たな取り組みとして今日まで保護と利用という立場で活動をして参った。これについても皆様方の適切なご指導、アドバイス等もいただきながら進めている。この事に関しても改めてお礼申し上げます。

知床も雪がちらつくようになってきた。本日はマスコミ関係の皆様も出席されているが投げ込みの期限が迫っている。先般開発局より話があり、11 月の早い時期に全面通行止めをしたいということであった。

この後、それぞれの議題について皆様には活発なご議論をいただき、今後においても私共にご指導を賜りますようお願い申し上げ、挨拶とする。どうもありがとうございました。

事務局 環境省 石川

出席者の確認をする。手元の資料に出席者名簿を添付している。本日は 4 名の委員に出席いただいている。小林委員、石川委員、庄司委員の 3 名は欠席である。その他の皆様は出席者名簿の通りである。

【資料確認】

これより進行は敷田座長に願ひする。

敷田座長

平成 29 年度第 1 回知床世界自然遺産地域適正利用エコツアーリズム検討会議を始める。

すでに何度もこの会議へ参加されている方が多いため、会議の基本的な進め方、ルールについてはよくご存知だと思ふ。この検討会議は、専門家である委員のワーキンググループメンバーと地域の皆様の代表との合同の会議となっている。研究者、専門家だけではなく地域と専門家で構成された知床の遺産管理に関する会議である。その為、経験に基づく発言をされる皆様と、専門的知識を基に発言をする皆様が混在する席となっている。基本的にはいずれも知床によく関わり、知床の世界遺産について考えていただいているメンバ

一であり、相互にリスペクトした発言をお願いする。

また、会議の時間は 16 時 30 分までと限られている。今回も非常に多くの案件があり、発言したい内容も多いと思う。ご自身の発言をしていただくのは結構だが、お聞きになっていただく事も重要なことであり、他者の発言を正確に聞いてほしい。この点でも他者の発言に対してのリスペクトをお願いする。

もうひとつ重要な事について私座長より確認したい。エコツーリズム検討会議は、知床のエコツーリズム戦略に基づいて運営している。午前中に開催した世界自然遺産地域連絡会議とはこの点で性質が異なっている。皆様で作ったエコツーリズム戦略に基づいており、戦略は元々知床の世界自然遺産地域管理計画に基づいて作られている。管理計画の体系の中に戦略があり、戦略に基づいて提案制度や議論が行われていることを再確認願う。細かい説明になるが、戦略には基本原則があり、戦略の目指しているところは、皆様の地域にある地域資源をできるだけ効果的に長く使うというところである。この二つの視点は、ともすれば対立することがあるが、バランスを取ることも可能な選択肢だと考えており、ぜひこの視点も重視してほしい。この基本的な考え方、進め方については、私から毎回皆様にお伝えし、参加の意味をお考えになって議論してほしい。

これ以降の発言は基本的に自由である。毎回お願いしているとおおり、発言される方はその組織を代表して発言をされる場合と、個人の専門家としての発言をされる場合の二通りがあると思う。できればどちらの立場であるのか明確にして発言してほしい。

個人の発言は基本的に責任を問われない。自由な発想で発言いただく方が全体的な利益に繋がると考えているからである。代表としてお話いただく場合は、その組織内で相談したものであると認識する。それが混在すると理解しにくくなるため気をつけてほしい。

ワーキンググループの専門家は専門的知識に基づいて発言をするが、専門家も人間であり知床への思いからの発言が出る場合もある。経験や体験から基づく個人の意見が入ってしまう可能性もあるがその点は理解してほしい。

議事を進行していきたい。

一点目、知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況について説明していただく。前々回から北海道庁より説明していただいている。石井氏からお願いする。

【議事 1. 知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況】

北海道オホーツク総合振興局 石井

知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況について説明（資料 1）

資料に訂正がある。資料ではウトロ海域について今回報告しないことになっているが、報告がある。また、知床沼について終了解散した部会としているが、今回報告をしていただく。

敷田座長

今の報告について修正、訂正等の意見はあるか。

知床財団 寺山

外国人旅行者向け情報発信の強化を提案しているが、この検討部会は検討状態なのか実施部会なのかがわからない。北海道庁の資料によると検討部会、議事次第によると実施部会となっている。どちらなのか。

敷田座長

実施部会に移行しているのではないか。

知床財団 寺山

提案書の内容自体は実施部会に入ったという認識でいた。座長から出された「外国人向けに 100%レクチャーを行う」という宿題に関しては具体的には検討には入っていない。

北海道オホーツク総合振興局 石井

こちらの確認、認識不足で申し訳ない。座長の発言どおり実施部会である。

敷田座長

前回の資料でも検討部会に入っているため皆様も気がつかなかった。私の責任にしておいてほしい。

羅臼山岳会 佐々木

知床沼部会では平成 24 年度より 5 年に渡って調査しているが、終了解散した部会になるのか。資料では個別部会の報告となっている。

敷田座長

この部会は、対策が終了した時点で解散になり、その後モニタリングを継続している。しかし、前回の会議でモニタリングを毎年行い報告しているが、会議で報告が無いと羅臼山岳会より指摘があった。そのため今回は報告として扱っている。

羅臼山岳会 佐々木

承知した。

敷田座長

石井氏から補足はあるか。

北海道オホーツク総合振興局 石井

座長と同じ認識である。

敷田座長

他に無ければ次の議題に入りたい。議題 2 の実施部会からの報告について、赤岩地区昆布ツアー一部会、外国人旅行者向けの情報発信の強化部会よりそれぞれ報告願う。

【議事 2. 実施部会からの報告（1）赤岩地区昆布ツアー一部会（報告）】

知床羅臼町観光協会 池上

「知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアー」実施状況等について説明（資料 2-1）

本年度は実施が無かったことから、現状と課題についての資料がないため口頭で報告する。募集数が催行人数に達してなかったため催行できなかった。問い合わせは 3 件 4 名よりあったが人が集まらず実施できなかった。

旅行会社の関心は非常に高かったが、問い合わせのみで商品造成には結びつかなかった。いただいた意見としては、「1 回 20 名という上限ではツアー参加者を 2 回に分ける必要があるため扱いにくい。」「特にテーマ性のあるツアーカテゴリーに入る本ツアーでは、春の素材説明会の段階から商品造成する必要があるため、次年度検討させてほしい。」と言われた。

本年は次年度夏の募集に向けて、秋の素材説明会に現在事業者が出向いて告知しているほか、観光協会からも素材説明会に参加して PR 活動を行っているところである。

また、開催日指定の募集についても、もう一度チャレンジしたいと考えている。次年度 8 月に 2 回設定し実施しようと考えており、現在受け入れ機関等と調整中である。

その他、現在運輸局に不定期航路事業の届け出及び航路申請内容については受理されていたが、本ツアーについて再度条件の整理が必要な旨指摘を受けている。再来週に担当者で打合せ予定である。

敷田座長

赤岩ツアーの報告に関して意見、質問はあるか。

遊漁釣り部会 野田

資料にあるように 8 月 4 日、5 日の開催日指定で募集を行った。この日程で委員の皆様をご招待したのだが、参加の可否すら連絡が無かったため残念でならない。

敷田座長

発言を補足すると、当日科学委員会が開かれており、科学委員会の先生方に体験していただきたいと案内したが、残念ながらどなたも参加されず今回は実施を見送ったということである。

遊漁釣り部会 野田

敷田座長は1年目のツアーに唯一参加していただいた。残念ながら2日目のスケジュールのみでの参加であったが、参加者でなければわからない空気感というものがある。紙切れ一枚の資料で見るとは全く違うため、現場の雰囲気を知って貰えただけでもありがたいと思っている。

敷田座長

科学委員会委員の皆様には引き続き私からご案内する。できればワーキングの先生方は機会を見て参加していただきたい。これはツアーへの参加ということもあるが、先端部利用の状況を議論する際に、共通の体験が必要だと私は考えている。是非よろしく願います。

先程補足があった運輸局からの指摘については、赤岩ツアーだけでなく、先端部への船舶によるアクセス全般についての指摘だと思う。環境省より運輸局からの話について補足をお願いする。

事務局 環境省 守

運輸局からの指摘について説明する。砂浜に参加者を降ろすことによる安全性の担保について、赤岩ツアーだけでなく、漁船、瀬渡しを含めた状況確認を1度行いたいということを知っている。進捗があり次第ご報告させていただく。

敷田座長

具体的には上陸時の設備が必要であるという指摘を受けており、これまでのように簡単に渡せないということも考えられる。それを受けて対応もしくは仕切り直しが必要となる可能性がある。運輸局からの指摘については、詳細な話しをしてみないとわからないため次回検討会議で話題にしたい。

報告をいただいた資料にない補足の部分だが、今年度は催行が無かったということである。5年間で採算性を考慮するという条件が承認の際についていた。この採算性というのは単純に参加人数を増やして収益を上げるという意味ではなく、安定した収益の中でツアーを催行して欲しいということ。そして、それが環境に対するインパクトをコントロールする根拠になる。そのため、いたずらに人数を増やすための努力を求めているわけではなく、余裕を持ったツアーを実行し、環境へのインパクトに配慮しながら実施して欲しいということであるため勘違いしないほしい。

このツアーは、羅臼町に非常に関わりのある昆布漁について改めて考えるきっかけを作ったことは事実であり、本日配布した昆布漁の写真展や地域資料の発掘などが並行して進んでいることについても評価したい。そのため、このツアーを単体で考えるのではなく、社会的影響も含めて検討してほしい。これは座長からの個人的な意見である。

間野委員

今年参加者がいなかったということは大変残念な結果であったが、敷田座長の発言にもあったとおり、写真展、PR等を同時に進行させている。ツアーを展開するにあたって何のように段取ると良いか等、様々なことを学習している段階だと思う。

旅行会社からは、1回20名の上限ではツアーの参加者を分けられないとできない、テーマ性のあるツアーは早い段階でPRしなければ組み込めないという意見があったとのこと。50名の参加者があった場合に、どのように振り分けるかというような事も試行中に学べると良いのではないかと。次年度以降に関して考えている事があれば教えてほしい。

知床羅臼町観光協会 池上

観光協会では公式な会議を開催していないため、個人的な考えとなってしまうが、テーマ性をもっと打ち出して行きたいと考えている。大きな団体を2回に分けてどう捌くかを検討するよりも、これだけの金額を払ってこれだけ遠くの地に来ていただいている、深く学習したい方達向けの学習の場を提供していきたい。その気持ちは現在も変わらず教育的な価値があるというところを更に押し出していきたい。例えば、今後は大学のゼミや学校教育に組み込んでいただく等、更に評価が高まり、この地域に還元できる形を確保したい。単にツアーとして旅行会社に販売するという以外の方法も検討していくべきだと考えている。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

観光船としてはあまり関わる部分はないが、池上氏の説明を補足する。今年のツアー催行ゼロという数字は、私達の配信不足が大きな要因だったと思う。本日別途配布した資料では「知床岬の昆布漁」という表現をしているが、何年間か赤岩という名称を使用していた。赤岩が何のことであるか分からないというのが日本中の共通認識である。そのため、今年より少しネーミングを変えた。

観光協会、事業者等は、これから始まる旅行会社の様々な商談会、プレゼンする機会があるたびに活動を行っている。本日は当事者の知床らうすリンクルも札幌で活動している。私たち観光協会も来年以降はゼロではなく、もう少し底上げしたいという思いはある。

50人来た場合にどうするかという優先順番である。私達やゴジラ岩観光でも定員はあくまでも定員である。反対に40人来てくれれば幸いである。50人来ようが60人来ようが全く心配する事では無い。乗りたいからもっと早く予約すれば良いということ。野田氏

のところも定員 40 人だが定員まで満たない状況である。座長が言うように、この 5 年間で何とか採算ベースに乗せたいというのが羅臼あげてのこの取り組みである。

敷田座長

是非、自社のマーケティング成功体験を生かして、5 年後に継続できるように持って行ってほしい。

次に外国人旅行者向け情報発信強化部会から報告を願う。

【議事 2. 実施部会からの報告（2）外国人旅行者向け情報発信の強化部会（報告）】

知床財団 寺山

「外国人旅行者向け情報発信の強化」部会報告について説明（資料 2-2）

敷田座長

この報告に関してコメントや補足、質問はあるか。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

閲覧数が 1,000 というのは別の web サイトを作っているのか。知床財団ホームページのトップページにこれが組み込まれている訳ではないのか。

インターネットで知床と検索すると、いきなり知床財団が出てくる。はっきり言うとみんなが聞きたいことは、財団の運営についてではなく知床の情報である。

知床財団のトップページに、この玉手箱にページの半分程度を使用すると日本中、世界中の人が見るのではないか。そういうアプローチに変えた方が親切ではないか。

お金を掛けて 1000 か 2000 の閲覧数というのは如何なものか。もっと広く知床の本当の意味での情報を、両町の情報を偏らずに正確に的確に配信してもらうよう是非検討してもらいたい。

敷田座長

私は偏っているとは思っていない。知床財団より反論していただければと思うが如何か。

知床財団 村田

反論するつもりは全く無い。世界中から何を見るかは見る人が決める事である。見たくない人はいるかもしれないが、見たい人もかなりいるのではないか。そういう意味では、これをコントロールする必要はないと考える。技術的に難しい面もあり、この世界は見る側の人を選んでいくものだと思っている。5 秒で捨てられるのか、ずっと見るのかというのは次の話だと思う。

敷田座長

補足はあるか。

知床財団 寺山

事実を申し上げますとトップページに貼り付けている。現在、「知床」で検索してトップにくるのは斜里町観光協会のサイトである。知床財団 HP の表示順位は月によって変わり、8月に Google で検索した場合、知床財団は 2、3 ページスクロールしなければ出てこない。シーズンオフになると少し上にくるという状態である。長谷川氏が期待される知床財団 HP からのリンクでアクセスを稼げるという認識は、もはや過去の話になっている。情報がどうあれば人々に伝わるのかというのは、様々な技術を様々な専門家のアドバイスを受けて考えなければ、相手に届かない時代になってくると思う。そのため、これに関しては知床財団というより、様々な皆さんの力を結集して情報を届ける為に何をすべきなのかを勉強しなければいけない。是非皆様の協力をお願いしたい。

敷田座長

知床財団より事実に基づく発言をいただいたので、皆さんも納得されたと思う。一方で、情報発信は単に情報を発信するだけではなく、知床としての主張を含むことになる。その点について、知床財団と関係事業者の枠を超えて共通するロゴも持っている関係上、知床イメージをどのように伝えるべきか情報発信の共通化も必要になると思う。

外国人旅行者は特に斜里側で近年 20%の率で増えてきており、非常に顕著な動きになっている。平成 13 年の記録では中国人旅行者が 1 人であったが、現在は 1 万人いる。倍率にすると 1 万倍の増加となっている。こういう現状を考えると、単に知床の良さやルールを伝えるだけでなく、いらっしゃる方のコミュニケーションや文化の違いを超えて、こちらの事情を説明していく時代に入っていると思う。是非外国人旅行者向けの情報発信の成果をそちらへ展開してほしい。

中川委員

知床森づくりの道の開拓小屋コースが新しくできたが、オープンして間もないためわからない部分があるかもしれない。

このエコツーリズム検討会議での提案の中でも、以前ロングトレイルというものがあった。様々な観光客、特に外国人においては、もっと歩きたいということが以前からある。今回、フリーに入れるトレイルとしては最大最長の 5 キロという距離のものができた。これをどう管理するかということが、今後のエコツアーの方法として非常に重要になってくると思う。知床五湖のようなシステムで細目に非常に労力人手をかけて管理するのではなく、情報提供をベースにして安全に利用してもらうという意味では、これからの創意工夫が重要である。試行的な面もあるかもしれないが非常に期待している。

供用後二ヶ月程度であるが、情報提供はどの程度行っているのか。また、パトロールは毎日行って情報を取っているのか。フレペの滝などでは、利用者からフィードバックされた情報が非常に重要だと思う。この開拓コースは、それほど利用度が高くないかと思うが、どの程度の的確な情報を与えられるかという事が課題だと思う。そのことについてどう考えているか。

知床財団 寺山

情報提供による管理という形で運営することが大きな命題だと考えている。

現在の利用頻度は、9月9日から月末までで約200名程度である。利用者からヒグマの目撃等の情報を聞き取っているが、現時点では報告は無い。我々の管理体制としては、2週間に1度パトロールを行い、その情報を更新するということをミニマムの管理として現在運営している。これが多いか少ないかというの、運営状況を見ながら判断し、増やしたり減らしたりしていこうと考えている。実際には、今シーズンにある程度試行したものを来シーズン春からまた運行することで、ある程度固まったものになってくるのではないかなと考えている。様々な意見を今後もいただければと思う。よろしく願います。

敷田座長

他に無ければ、大雪山での取り組みに関わりがある愛甲委員より発言願う。

愛甲委員

大雪山の前に外国人旅行者向けの情報発信について質問がある。ホームページ情報玉手箱のアクセス数はトータルなのか。日本語と英語での違いは分からないのか。

知床財団 寺山

日本語と英語のトータルである。英語での数は出していないが、かなり少なかった。

愛甲委員

今は日本語と英語だけなのか。中国語などはないのか。

知床財団 寺山

他言語の件に関して検討した際に、日本語と英語に絞ろうという方針になった。中国語、韓国語その他あるが、技術革新の中で多言語に関する対応は様々な解決策が出てくるであろうと考えた。コストを掛けられるほど体力もないため、我々が行うものとしては英語に絞ろうという方針でやっている。

愛甲委員

承知した。現状について昨年から夏冬で調査したが、ウトロに来ている利用者で一番多いのは中国系、アジア系である。今年の夏は、そういう人たちが自分の言語での情報が欲しいのか、それとも英語で良いのかということも聞いたため、結果が出たら情報提供するので検討してほしい。

コースのグレードを表記しているのは、地図に印刷して販売しているものだけなのか。

知床財団 寺山

知床連山エリアマップとして販売しているものに、この表記があるということである。

愛甲委員

大雪山ではグレードを作って一般の人にも知ってもらい普及させていくために、最初に作った時の広報が足りなかったという反省があった。現在、環境省で新しく道標を建て直す際の検討に入れていただいている。それと合わせてGoogle マップでも表示されるように環境省のサイトで KML のマップを載せてリンクを貼っていただいたり、大手の山岳雑誌などに売り込んで紹介していただいたりということをしている。

登山地図会社に問い合わせをしたが、そういうものは載せられませんと断られたため、そこは課題である。信州などでは、アルプス周辺でかなり広域的に統一したグレーディングを積極的に広報している。北海道全体の問題かもしれないが、そういうものを作ることができれば、広報もしなければいけないと考えている。

大雪山で立派な標識を作ってもらう前は、小さいシールを既存の標識に貼り付ける形のグレード表示を 2 年くらいしていた。環境省でも様々な問題があるかもしれないが、可能であれば検討してほしい。特に岩尾別ルートと縦走ルートの境目などのグレードが切り替わるところ、要はこれからグレードが切り替わって「ここから先は縦走する人が行く場所ですよ」というのを入口のところで認識してもらうことが目的なため、そういう工夫をしていただければと思う。

敷田座長

知床財団から何かあるか。

知床財団 寺山

登山道の標識に我々がいきなりシールを貼る訳にはいかないため、是非関係機関で検討いただければと思う。よろしく願います。

敷田座長

愛甲委員よろしいか。愛甲委員の発言にあったが、現状では斜里側の 46,000 人の観光客の内、半分が中国と台湾からの利用者である。そのため非常に影響力があると思う。寺山

氏の発言のように、近い将来には自動翻訳が入ってくるため、設備投資を現在する必要があるかというのも大きな疑問でもある。通訳がいなくなるという時代なので、基本を英語としておくというのも良いかもしれない。むしろこちらが持っている現在のこの管理の文化、言葉でよく説明しなくてもお互いは解りあっているという部分を、違う文化を持っている人にどう伝えるかを準備しておく方が長期的にはメリットがあると私個人としては考えている。

ルールを英語や中国語にすれば伝わるというのは間違いであり、文化の違う人に対しては向こうの文化でどう理解されるかを考えた上で伝える必要があると思う。外国人旅行者向け情報発信の強化の検討の中で、その点を考えていただければと思う。この点について知床財団より提案があってから、こうした議論が活発になっている。平成26年以前は、ほとんど情報発信に関する議論を皆様の間でもしていなかった。そういう面では大きなきっかけになったと思う。知床財団としても是非前向きに取り組んでほしい。

PRの意味がある情報発信とは別に、ルールを伝えるということになってくると、例えばヒグマへの接近の問題では非常に重要な手段になっているため、この点については知床財団単独というよりも是非環境省としても取り組んでほしい。今後、こうした文化の違う国の来訪への対応について、環境省はどのような考えを持っているか。

事務局 環境省 石川

この様なグレード、マップを作ってください、現在普及をしているところだと思う。できたばかりであり、今後様々な意見が出されると思う。それらの意見を踏まえつつ、このグレードというものが確定していった段階において、現場に標識などを設置するということは十分可能である。環境省も部会のメンバーとして入っており、敷田座長の発言にあったように、全体としてどのように迎えるのか、受け入れ環境をどう整備していくのかについて、部会の中でステップアップして議論していくのがよい。

環境省としては現在満喫プロジェクトというのを進めている。それは、海外から来るお客さんをどのように国立公園に導いて楽しんでいただくか、また、リピーターになっていただくかという施策である。全国的な取り組みの前に、先ず北海道で一つになる事が重要だと考える。現在、環境省に限らず国交省の開発局、運輸局など様々な事業が北海道全体を対象として動いており、どういう国にターゲットをおくのか、受け入れ体制としての英語は大丈夫か、その様な議論が活発に行われている。それらを踏まえながら、知床についてもどのように受け入れ態勢を整えて行くのかということ、この部会を中心にして議論できれば良いと思っている。

敷田座長

石川課長の発言のとおり、満喫プロジェクト、それから道全体としての議論が進行中であるが、知床は外国人観光客が急速に増えていて、世界自然遺産ということで「世界」が

付いている。知床での対応は非常に良い例になると思うため、予算の面でも是非考えてほしい。もはや知床財団というひとつの組織で担えるレベルではないと思うため、よく検討してほしい。

本件に関して何か他にあるか。無いようなので議題 2 の実施部会からの報告を以上で終了し、3 の個別部会等からの報告に入る。

それでは 3 の個別部会からの報告、1 番目厳冬期のツアーについて説明をお願いします。

【議事 3. 個別部会からの報告（1）厳冬期の知床五湖エコツアー事業】

知床斜里町観光協会 新村

平成 28 年度厳冬期の知床五湖エコツアー事業実施報告について説明（資料 3-1）

試験除雪の 3 年が終わり通年供用開始という話が出ている。この件については、管理の問題、その他課題等があるということから、関係機関と十分協業しながら進め、改めてこの場で皆様に報告をしたい。

敷田座長

本件について斜里町から何か補足はあるか。

斜里町 茂木

補足は無いため質疑を待ちたい。

敷田座長

承知した。報告内容について質問はあるか。

北海道 小林

外国人の方も多く予約されているみたいだが、web 予約のシステムは日本語のページになるのか。

知床斜里町観光協会 新村

言語は英語、日本語の 2 つである。

中川委員

外国人が 60%近くと非常に多いというのが特徴である。外国の方はこのツアーを何処で知ったのか。知床に入る前に知って来たのか。それとも知床に入ってから知ったのか。

また、直接受付というのは、知ってからそこで受け付けたようなイメージを持つがそれで良いのか。ネット利用もあるが割合が少ない。60%の外国の方は、どのような形で参加さ

れたのか。

知床斜里町観光協会 新村

外国人の予約状況だが、資料に書いてある直接で 2,049 人は事業者と直接メールのやり取りをした数字も入っている。詳細データは取ってはいないが、我々の感覚では、事前に調べているお客様もいるが、実際に入ってきて前日に事業者に申し込むお客様もいると感している。詳細な数字は押さえていないが現時点ではそういう状況である。

中川委員

来てから知る割合が多いと推定されるということか。受付のネットというのは、web 利用のパーセントなのか。メール申し込みは別になるのか。

知床斜里町観光協会 新村

この数字はあくまでも web 利用だけである。我々の観光協会にメールで問い合わせがあった場合は、予約ができるところがあるという事と、事業者を紹介するリンクを貼って教えているという状況である。

敷田座長

他に質問、意見は無いか。特に無ければ、最後にもう一度全体で 5 つ全ての報告に関連して議論する時間は設けたい。

斜里町から何かあるか。

斜里町 茂木

新村さんの報告の最後に、通年供用という説明があったため補足説明を行う。平成 26 年度から 28 年度までは網走建設管理部の試験除雪を行っていただいたが、3 年 1 セットというサイクルが終了した。平成 29 年度からは観光協会が自主除雪を行うという方向性は、3 月の本会議時より変わっていない。網走建設管理部から試験除雪の結果が良好であったと示された。これが何を意味するかというと通年供用ができる判断をしたということで、斜里町側にも話があった。新村さんの発言のとおり、今後は保全と利用という関係性の中でどう整理していくかが斜里町としての課題となっている。関係機関を含めた事務レベルでは 1 度話し合いをさせていただいた。しかし、通年供用するという考え方に立てるのか、逆にこれを断われれば今後一切開かないのではないかという心配もあり、そういう事も様々あると思うため時間が掛かかると思う。この検討会議で平成 29 年度の自主除雪ということが確認されれば、今後の話は平成 30 年度、すなわち平成 31 年 1 月の冬期利用に関係することとなる。限られた時間の中で精力的に協議を進めて行かなければならない状況にある。

敷田座長

この事業は平成 26 年にスタートして、平成 26 年の利用者が 756 人。平成 27 年が 2,127 人。平成 28 年が 1,460 人と、傾向としては増えてきており、安定した事業だと考えている。一方、除雪の問題については単純ではなく、除雪した結果どのような利用がされるかというのが本質である。現在は試験除雪という制約のある中で、現地でトイレが無いという問題がある。また、検討会議で認めた静寂性を資源としたツアーであるという設定が変わるのであれば改めて議論が必要だと私は考えている。この理解で斜里町よろしいか。

斜里町 茂木

基本的にはそのような考え方になると思う。道路が開いたとしても行き先に何があるのか、そもそもそこで満足な受け入れ体制が取れるのかなど、そういう意味で様々な方角からの検討が必要になってくると思う。単に道路が開くか開かないかという次元の話ではないという判断である。今後慎重かつ積極的に協議をしていきたいと思う。

敷田座長

観光協会もその理解でよいか。

知床斜里町観光協会 喜来

斜里町の発言のとおり、新たな利用の枠組みについては協議会等々で検討したい。それを広めた中で自然センターから様々な箇所をどう利用するかという協議も必要だと思っている。1 年では短いかもしれないが、平成 30 年度に向けて検討させてほしい。

敷田座長

斜里町と観光協会の発言のとおりである。承認した枠組みが変更になるのであれば再度ここで議論をしたいと思うが、枠組みが変わらない条件の範囲内であれば継続実施ということになる。なお、発言があったように自然センター付近の利用も、この議論の中で常に話題になってきた。知床五湖の利用について限定して議論するのではなく、自然センター付近の冬期利用を含めた総合的な調整が必要だと言う認識もこの会議の共通認識だと思う。次回以降、改めてそれらを前提とした話をしてほしい。

これに関連した意見はあるか。中川委員お願いします。

中川委員

確認したい。一般供用ということは、夏と同じようにフリーに誰でも道道を利用できるということか。

斜里町 茂木

網走建設管理部から伺っているのは通年供用となった時点でフリーの状態ということ。要するに夏と変わらない状態での利用ということになるということを知っている。しかし、今回様々な経過があつての話である。現状は冬期通行止めという形であり、地元の議論を汲み取るというスタンスでいると聞いている。地元が開ける事を必要としないのであれば、条件が整っているからといって開けることはしない。そこを無理に開けようというスタンスではないと聞いている。地元合意の中で開けたいということなら開けるし、開ける必要が無いというなら開けないと聞いているが、勿論その結論をいわずらに先延ばしすることはできないという状況にもなっている。今後 1 年程度の時間をかけて検討していきたいという考え方である。

中川委員

そういうことであれば現在の知床五湖エコツアーという枠組みも大きく変わる。五湖の利用だけでなく、途中の利用も様々な形が出てくる。かなり議論が必要だと思う。時間が無いのであれば、その時間の中で議論しなければいけない。冬期利用と言うのは単に五湖の利用ということではなく、大きく変わると思うため検討が必要である。

敷田座長

時間の制約があるということである。次回この会議は来年の 3 月に予定されているはずであるが、それまでに状況の変化や議論が必要ということであれば、事務局と相談の上で議論をする機会を設けていただくことも可能だと思う。メール等で意見を交換することも可能だと思うためよろしく願います。何れにしても次回会議において最低でもこの経過報告はお願いしたい。次の議題の説明は環境省から願います。

【議事 3. 個別部会からの報告（2）知床五湖地区における取組】

【議事 3. 個別部会からの報告（3）カムイワッカ地区】

【議事 3. 個別部会からの報告（4）ウトロ海域における取組】

事務局 環境省 山本

知床五湖地区における取組の進捗状況について説明（資料 3-2）

カムイワッカ地区における取組の進捗状況について説明（資料 3-3）

ウトロ海域における取組の進捗状況について説明（資料 3-4）

敷田座長

報告をいただいた資料はまとめて 3 つになる。コメントや質疑はあるか。

愛甲委員

カムイワッカの平成 29 年の入込状況、特に秋の連休時期について教えてほしい。

事務局 環境省 山本

9月のシルバーウィークの5日間規制は、平成28年度までは行っていたが本年度より行っていない。斜里バスから5日間のためにバス整備体制を立て直しするのは難しいと言われたため、本年度から行わないということになった。シルバーウィーク期間中は交通整理等に関係機関で行うことを検討したが、連休の並びもあまり良くなかったため、そこまで混雑は起きないと思い行わなかった。ただし、監視員は常に1名配置し、混雑した際の交通整理等に対応した。今年度のシルバーウィーク中は数台の駐車待ちは発生したが、大きな混雑は無い状況であった。また、シャトルバスの利用者数データ等は現在整理中であり、整理できたらお示しする。

敷田座長

私から質問だが、カムイワッカの工事は平成31年度終了で良いか。一度計画を示していただいたはずであった。

事務局 環境省 山本

計画では平成31年度終了予定と聞いている。新たな違う計画があるのかは聞いている。

敷田座長

平成31年度で工事が一旦落ち着く。カムイワッカについては、この検討会議でも毎回の様に「新しいルールが必要である」、「今の使い方果たして良いのか」という意見も出ている。工事が落ち着いた段階で将来に渡っての交通規制のあり方をもう一度考えてもらうことは可能か。

事務局 環境省 山本

その件についてはカムイワッカ部会としても大きな話になっている。部会でカムイワッカ地区全体の利用について検討していくつもりでいる。

敷田座長

この交通規制がはじまった当時は、単純に規制するというコントロールのためだけの意図であった。現在のカムイワッカ利用は、滝を見に行くだけというよりも、その前後の原生自然が感じられる場所の利用も含めて総合的に考える必要がある。また規制の手段も当時は「入れる」、「入れない」だけの二者択一から、例えばライドシェアのような様々な形、新しいテクニックも出てきている。それも含めてこの工事終了後に検討してほしい。

【議事. 個別部会からの報告（5）知床沼における取組】

羅臼山岳会 石田

知床沼における写真撮影モニタリングについての報告を説明（資料 3-5）

過去 3 年間、今年も現地へ行ったが特に変化はなく、むしろ植生はどんどん回復し、植物が茂ってきている感覚がある。知床沼、知床岳方面に関しては、ササやハイマツがどんどん茂り、年々行きづらくなってきている。到達困難度がかなり上がっている。特に知床岳方面については、これまでは 3 日ぐらいかけて行っていたが、現在では 3 日かけても行けるかどうかというぐらいに難易度が上がっている。そのため、ますます入山者は減り、道が通りづらい状況により今後も入山者が増加するという予想は立てにくいと思っている。

間野委員

植生の影響について質問する。この 3 年間で、高い所から見るエゾシカの痕跡について、頻度が変わったというような印象はあるか。

羅臼山岳会 石田

エゾシカに関しては、それほど注意して見ていないためわからないが、あまり見かけることはない。糞がたまに落ちているという程度である。

敷田座長

知床沼の案件は、平成 24 年の検討会議において提案があった際に担当されたワーキングの専門家は、植生の専門家の石川先生であった。その石川先生からコメントが届いているため環境省から紹介していただく。

事務局 環境省 守

本日ご欠席されている石川委員からのコメントを紹介させていただく。

先ず 1 点目「平成 29 年度の写真が無いが、モニタリングを続けているものの資料の提示が間に合わなかったのか。」という質問をいただいている。これはその通りである。写真だけでなく利用状況の資料もプラスして判断しており、現時点で平成 29 年度の利用状況資料はできていないため、判断は来年度以降にする。

2 点目「立ち入り人数が横ばいであることと、平成 28 年度までの写真を見る限りは特段の変化はないと判断して良いと思う。」とコメントいただいている。また、「毎年撮影をしていただいている羅臼山岳会の石田さん含め、山岳会の皆様に感謝申し上げます。」というコメントをいただいている。

3 点目、環境省の事業により概ね 5 年おきに知床沼の植生調査を実施しており、前回は 2013 年に石川先生も同行して写真の撮影場所である固定調査区に行っている。その中で詳しく組成調査も実施している。その時点では、撮影場所に過去と大きな変化はなかった。

次回の調査は 2018 年頃になるが、その際に植物の種レベルまで踏み込んだ固定調査区で調査を行うので、この撮影の調査とその 5 年に一度の詳しい調査を合わせて総合的な判断を 5 年に一度できる機会があれば良い、という意見をいただいている。

敷田座長

環境省から石川先生のコメントを紹介した。全文が石川先生のコメントと考えてよろしいのか。

事務局 環境省 守

そうである。

羅臼山岳会 佐々木

来年に石川先生が来てプロットを見ていただけるということで、大変うれしい。知床沼がキャンプ禁止になった時、我々山岳関係の団体は登山者の安全の立場から見ていた。今年 6 月に 1 人が遭難して 80 歳の方が低体温症で亡くなった。札幌にあるガイド会社のツアーであったが、知床沼指定キャンプ地まで到達できず青沼から頂上往復したことが要因と思われる。知床沼をベースにして知床岳を往復していれば、当然そんな事故は起こらなかった。本来の登山としての利用のあり方というのは、この適正利用とかエコツーリズムなどとは少し離れるのではないかと思っている。本来、我々は登山を趣味とする山岳団体である。この会議では、様々な提案をして多大な手間とお金をかけて報告されていると思うが、我々は事業収入もなく会費で賄う任意の団体である。モニタリングは 5 年間続いているが今後続けていくのは少し難しいと思っている。羅臼山岳会のような弱小団体がこんな大きな提案をしてしまった。登山者の安全という見地から考えたものが、エコツーリズムという別の角度からの報告になったということについて、本当にこれで良いのかと最近考える。先端部の山は登山道路がある中央高地とは全く違う訳である。シーカヤックもそうであるが、そういうアクティビティーの中ではエコツーリズムの概念は馴染みが薄いのではないか。緊急の場合はそこにキャンプを「する」、「しない」ということにはならない。夏の間は水があればどこでもキャンプする。「先端部利用の心得」はネットで見られるが、年間 100 人程度しか登らない人全部がこのルールを見てルールを守っているのではなく、山岳の登山者としての本来の未開の山に登るということを山岳の常識を踏まえた人だけが登っていると思っている。やはり遭難という大きな出来事があると、人命救助の立場から警察機関とタイアップしながら救助活動にあたるわけであるが、こういう見地からの考えを申し伝えておく。

敷田座長

佐々木氏からは前回 28 年度の会議でも、10 年間のモニタリングは大きな負担であり、羅

臼山岳会としてもどこまで可能かわからないという発言をいただいている。確かにその通りである。モニタリングについて今後どのように維持できるかということ、ここで議論をしても良いと思う。私の個人的な意見であるが、写真によるモニタリングが可能であれば、極端にいうと誰が写真を撮ってもしっかり判定ができれば良いということになる。そういう範囲でのモニタリングについて議論をしたい。事務局はこのモニタリングの負担についてどのように考えているか。

事務局 環境省 守

全ての部会のモニタリングについては、まだ考えられていない状況である。しかし、知床沼のモニタリングについては、今年度も環境省で代行して写真を撮影しており、各機関で連携して写真を撮るといった状況を作っていければ良いと思っている。

敷田座長

環境省の発言のとおり、羅臼山岳会としてそれ以上の大きな負担が今後発生するとは限らないが如何か。知床沼の番をずっとしているということでは無い。

羅臼山岳会 佐々木

それはわかっている。当会は昭和29年に発足し、登山道路整備を含めた様々なことをボランティアで行ってきた。この50年間で遭難対策を含めて、過去に大きな遭難救助活動を私も体験している。地元の山岳団体は当会しか無いため、救助活動、ボランティア的なことは行うのは当然の事だと思っている。最近は道警救助隊などの技術が上がってきたが、今回のように札幌から駆けつけるのであれば、やはり人命救助は地元の我々や斜里山岳会とタイアップしながらやるのが一番早い訳である。そういった意味では、これからも続けて行くつもりはあるが、あくまでも他の団体と違う任意で集まった会である。山を登る団体のため、こんなところに大袈裟に出てきて提案して本当に良いのかと思っている。しかし、我々はやはり重要な責任として誰に言われることなく続けて行く。環境省でやられる事、この会議でやられる事の主旨は十分わきまえて、これからも続けて行くつもりである。

敷田座長

おっしゃる通りである。山岳会という愛好団体に過度な負担を求めるのは難しいということは、皆様の一致した理解であると思う。一方、今回の提案により知床沼の状況は改善されたということも事実である。それを成功例として共通認識すれば良いと思う。モニタリングを誰が今後負担して行くかという問題は、知床沼以外でも課題になってくるところである。一様に誰がモニタリングをするという決め方もできないと考える。今後提案ごとに話をすることにした。

知床沼を含めて全体を通した意見、質問、確認事項等はあるか。特に無ければ一旦休憩

を取りたい。現在 15 時 17 分、15 時 30 分に再開したい。15 時 30 分までに着席をお願いする。

—————休憩

敷田座長

会議を再開したい。着席をお願いする。後半の議題 4. 長期モニタリングについて 5. 中期的な課題 6. その他と 3 つ続く。順次進めていきたいが、冒頭でひとつ断りがある。終了時間 16 時 30 分より少し前に愛甲委員が退出する。専門家の委員が 3 名欠席している中で、もう 1 人退出してしまうのは専門家グループとしては大変申し訳ない。次回以降日程調整を厳密に行うようにする。今回はご容赦いただきたい。長期モニタリングについて事務局から説明願う。

【議題 4. 長期モニタリングについて（1）長期モニタリング計画の見直しについて】

【議題 4. 長期モニタリングについて（2）平成 28 年度利用状況調査の結果について】

事務局 環境省 守

知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画の見直しについて説明（資料 4-1）

平成 28 年度知床国立公園の利用状況調査結果について説明（資料 4-2）

敷田座長

長期モニタリングについて、(1)、(2) を合わせて報告いただいた。長期モニタリングは科学委員会で検討している内容であるため、皆様にとっては多少わかりにくく、具体的に何のためなのか、何が進んでいるということが把握しにくいと思う。しかし、この知床世界遺産にとって重要な仕事であり、長期 10 年単位以上の変化を見て行くということであるため地道な作業であるが続けられている。

利用の関係については、現在は主にこちらの資料にあるような利用人数で測定をしている。利用人数＝環境へのインパクトという訳ではなく、常に使い方の問題が伴ってくるためご理解願う。しかし、利用人数は利用の度合いの一定の目安にはなるため、そういう視点で見えていただきたい。特に急激な増加減少があった場合、オーバーユースとアンダーユースがある場合には注意が必要である。その点で環境に対するインパクトを見れば良いと考えている。現場で特に気が付いている利用の変化があれば発言いただきたい。目立った変化があれば教えていただいで共有したい。

羅臼山岳会 佐々木

熊越えの滝の 117%利用者が伸びている。今年もこの 2～3 日中に閉鎖されると思う。熊越えの滝は羅臼の湯の沢に知床横断道路のゲートがあり、そこが閉鎖されるとそれから冬期利用になる。積雪期の熊越えの滝の利用、散策はスノーシューなどの様々な形態で、社

会教育事業、子どもの授業などで利用の実態があり閉鎖されたゲートの下をくぐって通過せざるを得ない。先程、知床五湖の利用の除雪についての話があったが、羅臼側の知床横断道路から峠方面への積雪期の利用は、多分この熊越えの滝の人数には入っていないと思う。こうした利用が現場で見られるが、冬期閉鎖中の道路をスノーシューやスキーを利用して行くという利用のあり方は、道路交通法（道路法？）からいうと違反である。羅臼側の場合は地形的にあの場所を通らなければ上の方へ行けない。ウトロ側ゲートから知床横断道路の方向に行くには自然センターの前からゲートをくぐらずに上がって行くところあるため問題ないが、羅臼はそういう問題を抱えている。エコツーリズムや観光的な需要では利用の計画は無いようだが、そういう需要で利用する場合には、エコツーリズム戦略に則って提案するということになるのか。

敷田座長

発言の趣旨は、熊越えの滝からの冬期利用の内容についてか。

羅臼山岳会 佐々木

そうである。熊越えの滝まで行く手前、羅臼温泉の少し上にゲートがあり、そこでゲートが閉まる。熊越えの滝の利用というのはゲートをくぐらなければ行けない。限られているがアクティビティーとしての需要がある。現場から見た状態で常に足跡がある。

敷田座長

提案が必要となる場合というのは、意図的にツアーを組む、意図的に利用を促進させる、新たな利用を設定するというケースに限られると考えている。おそらく発言のような自然利用の増加であれば、モニタリングをしていくということで基本的に良いのではないか。一方で、現状では5月から11月のモニタリング記録を行っているが、冬期の利用が顕著に増加する傾向があれば調べてみる必要もあると思う。しかし、ここでのカウンター設置は冬期では難しいのではないか。事務局、環境省から回答願う。

事務局 環境省 守

数としての把握は難しいためできていない。我々も巡視で入るため、その際に利用者の足跡がどれくらいあったかについては把握している。

敷田座長

自然利用であっても特に顕著なインパクトが予想されるのであれば、コントロール自体を提案していただくことも可能だと思う。しかし、できる限り自由に使える部分が広い方が私は良いと思っている。悪戯な規制は影響が大きいので、必要があるかどうかは皆様の判断になると思う。熊越えの滝の冬期利用の増加が環境に対してインパクトがある時には

コントロールの提案をしていただいても結構だと思う。

羅臼山岳会 佐々木

春先というか積雪期に知床横断道路のゲートをくぐって羅臼岳方向へ行くのは、国道であるため道路交通法上は問題があると思う。冬期閉鎖中に適応するかどうかの法的な問題は判らないが、そういう場所があってアクティビティーとして子供たちも含めた公的な利用があるということは事実である。今後ここに提案することなのか。冬期の閉鎖中の道路は道路ではないと思う。あの場所は当然山岳の領域になってしまう。そういう部分も含めて正規の形でそういうものを例えばガイドツアー、冬期間に羅臼湖へのツアー、湯の沢から道路閉鎖中にそういうアクティビティーができてというように、これからそういった部分に持って行くのであれば提案しなければいけないと思っている。閉鎖中でもやっぱり通ってはいけないと思う。車だけでなく歩きでも。そういうことが疑問であった。

敷田座長

おっしゃることは全くその通りだが、一方でこの場での提案というのは、利用を新しく作る、加速する、もしくはコントロールする、規制するという場合に限られてくると思う。現状でそういう利用が増加しているのであれば、ここで簡単に報告をしていただいて、その時点で考えれば良いかと思う。道路との関係については詳しい資料を持っていないが、おそらく事務局でも現状の整理はできていないと思う。よろしければ次回に実際の現状を整理して報告をしていただき、事務局より道路の管理状況について回答するということが良いか。

羅臼山岳会 佐々木

願います。

敷田座長

他にないか。中川委員お願いします。

中川委員

資料4-2平成28年度知床国立公園の利用状況調査結果の図15の表記は、「岩尾別登山口、羅臼温泉登山口および硫黄山登山口における入山簿からの入山者数とそのうちの縦走利用者数」の間違いでないか。図14の表記と同じになっている。

敷田座長

図14と図15のキャプションが全く同じであるので、図15のキャプションが間違っているのではないか。

事務局 環境省 守

図 15 のキャプションは間違いである。

中川委員

このグラフを見てお解りのとおり、最近の傾向は羅臼岳の登山者が岩尾別に集中し、羅臼温泉からの数が減少しており、去年と比べても半分程度になっている。羅臼温泉コースは、岩尾別コースと違った魅力のある良いコースである。片側だけ集中するというのは利用上の問題も様々あるのではないか。羅臼温泉コースの魅力をアピールするなど、ここをもっと利用してもらうように検討が必要だと思う。

敷田座長

中川委員のご指摘について、事務局からコメントはあるか。

事務局 環境省 守

羅臼自然保護官事務所の所管になるためコメントする。先程、外国人情報強化部会でグレード設定していただいたというのがあるが、岩尾別はグレード 3 で、羅臼岳はグレード 5 となっている。単純に登って降りるという作業だけでなく、難易度が全く違うと思っている。この利用者数の推移を見ると、登りやすい登山口、アクセスしやすい登山口から登っていると考えられる。単純に魅力が伝わっていない部分もあるとは思いますが、難易度の部分もあると思っている。

敷田座長

中川委員よろしいか。

中川委員

魅力と難易度も含めた PR を行ってはどうか。必ずしも難易度が高いから誰も行かなくなるということではないと思う。ある程度の難易度を求める人、森の中を歩くという静寂性を求める人がいる。景観も岩尾別側とは全く違うため、やはりもっとアピールが必要ではないかと思う。

敷田座長

単純な説明というより、知床全体として難易度、コースの状況説明を正確にしなければいけない。利用の促進をしたい場所、もっと魅力を提供したい場所については積極的な情報提供や説明が必要である。その点は他のサイトでも全く同じだと思うし、全体を通して改めていただきたい。

外国人向けの情報発信ではその点を意識して記述しているか。知床財団に願います。

知床財団 寺山

あくまで選択肢をきちんと提供するというのが情報提供の趣旨だと思う。難しい、リスクがある、そういったマイナスの情報、そしてプラスの情報もフラットな形で提供するという情報提供を目指している。おっしゃるように羅臼温泉コースに関してはリスクが高い。そのため静かであるということに魅力を感じれば選んでもらえると思う。そういうフラットな情報提供を目指しているため、そのような方向で努力したい。

敷田座長

今の回答のとおり、知床全体についての利用者のメリットとデメリットを正確に情報提供することが基本だと思う。羅臼山岳会どうぞ。

羅臼山岳会 石田

羅臼温泉コースのデータで前年度 818 人というのは登山者ではなく半分以上は少ししか歩いていないツアーの人数である。過去から見ていくと、大体 500 人、600 人程度から 300 人、400 人程度で推移している。岩尾別側からの人数の減り方は割合で見るとそれほど減っていない。全体の減り方に比べて羅臼温泉コースは健闘しているのではないかと思っている。羅臼温泉コースの魅力については、私も個人的に発信している。最近あのようなコースを好む方もいて、見直されてきている部分も実はある。リスクは高いので安易な誘導はできないが、岩尾別に比べて最近は少し延びているのではないかと思っている。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

初めて中川さんと同じ意見になって大変嬉しく思っている。難易度 5 と言っているが、私達が中学生の頃、羅臼では全校登山の必修ルートであった。そんなに難しいものなのか。しかし、新しい観光協会事務局長が山好きであるのに、なぜ羅臼岳に登らないのかと不思議に思っていた。こんな素晴らしい山は他に無いと思う。私はあまり山好きでもなく、詳しくもないが、国道からこんなに近い登山口があるところは日本中探しても無いそうである。岩尾別は遥か車で行ってから歩いて登山口まで大変遠いのではないか。簡単に行っただけいけない場所かもしれないが、まだまだ羅臼町としてアピールしても良いのではないかと思う。

敷田座長

国道のすぐそこに登山口があるのは、ここだけではなく日本全国にはあるとは思いますが、それも魅力の一つである。是非そういう情報も付加して発信をお願いします。

中川委員

時間が掛かることは難易度の指標の一つになるのか。そうだとすれば例えば頂上まで行かなくても、ある程度展望が効くところで戻ってくる。途中の森林散策を楽しむという形で難易度が低い部分の利用のPRもできるのではないか。

敷田座長

中川委員、今の発言は、難易度の付け方としてか、PRの問題か。それによって回答する人が変わる。

中川委員

情報提供について、最初から頂上に行く人だけを対象に難易度が5だとすると、ここまでは3ですよという形のPRができると思う。

敷田座長

全体で考えずにコースをパーツ別に分けた難易度の表記をするということか。少し複雑になるが、どなたか関連したコメントはあるか。

知床財団 寺山

グレーディングは非常に悩ましい。両町の山岳会から話を聞きながら、どうやってそれを多言語で伝えるかという悩みと似たところがある。例えば雪渓は羅臼温泉コースの最大のリスクである。非常にリスクが高いためグレード5になっている。そういうことを図でわかるように表記する工夫が必要であった。標高図というものを加えて、その中で雪渓のある部分はここであるという形で、実はこの雪渓がリスクであるということを、言語表現を超えて伝える工夫をした。単にルートの解説を英語化するというのとは違う作業をした。そういうものを上手く積み重ねていけば、「ここまでであれば楽しめる」ということを、少なくともインフォメーションカウンターでは説明できるようになる。そういう情報発信とグレーディング表記を組み合わせ、利用の促進、抑制だけではなく、上手く選択肢を示すことができる。情報発信とそのためグレーディングは、かなりしっかりとやる必要があるというのが、実際作業した我々の実感である。登山道ではリスクがある事は明確であったが、一般の登山道ではなく羅臼湖レベルなどに関しても上手く表現することで、選択肢として提案できるところが実は知床にはまだまだあるのではないかと考えている。

敷田座長

皆様の発言をまとめる。地元の方が歴史的に利用してきた経緯があり、利用しやすい条件が整っている場所で利用ができていない点は、新しい資源開発としての魅力があり、選択肢を増やすという非常に大きな意味があると思う。是非こういう点はメンバーの皆様で

連携して進めていただきたい。具体的に今の件に関して何らかのアクションが必要か。それであればここでもう少し話しても良いが、努力すれば良いという話であれば、この議論を止めて次の議論に移りたい。長谷川さんの発言にあったように地元の方の利用があるということは、その利用を無視できない。利用を拡大する場合は地元との軋轢についても配慮していく必要があると思う。

他に長期モニタリングについての意見あるか。特に無ければ 5 番目の中期的な課題に移りたい。

羅臼山岳会 佐々木

羅臼岳の利用の関係だが、ウトロ側の登山口の利用数からの見ると約 1/10 である。羅臼側の登山道路、ウトロ側からの登山、縦走路を含めて難易度が違うのは確かにその通りである。おそらくトレッキングの範囲で歩けるのは、今の縦走路プラスウトロ側からの登山道である。羅臼側は遅くまで雪渓があってアイゼン必携であり 6 月、7 月はピッケルも必要で難易度が高い。上級者向きではあるがコースとしては面白いところである。まだ利用者は伸びるのではないか。羅臼岳のコースに初めて登った人に言われるが、ウトロ側から何度も登ったが木の下をくぐって大沢とか羅臼平に出てようやく山が見える。羅臼側の方は下から国後や海が見えて、泊場という硫黄が出ている場所があり、素晴らしいところだと褒めて貰う。向こう側では常時登山道路の荒廃が進んでいて石組みをして、何千万も毎年お金掛けてやっている。羅臼側登山道路は昭和 29 年に羅臼山岳会が開削して以来ボランティアベースで補修がなされていたが最近では環境省の委託事業で整備がつづいている。利用を分散して向こう側の 8,000 人がこちらにもう少し来てもらえれば、こちらの魅力も伝わるのではないか。そして、登山としての本来の知床のあり方、羅臼側からの登山道路の魅力発信していかななくてはいけない。具体的な方法には、こういう場や様々なメディアを通じた発信などがあると思う。そういう方向に変わっていけば良いと考えている。

敷田座長

おっしゃる通りであり、利用の分散は従来からもこの会議で何度も議題にあがっていた問題である。分散により影響が広がるという事もあるが、一箇所に集中して過度な利用、オーバーユースになるよりも良いという考え方もある。その点については情報発信も含めて今後のテーマとしていきたいと思う。

愛甲委員

グレーディングについて一つだけ発言する。大雪山のグレーディングを行った際に、日帰りする人と登山する人、山頂を目指す人を区間で分けた場所もある。先程、雪渓の話が出ていたが、大雪山ではそのような危険箇所や、植生が急激に変わったりする場所に切れ目を設けて、かなり細かく区間を区切った。一度見ていただければ分かるが、裾野の方は

かなり緩い。引き返して来るかどうかは別として、展望の良い所まで行って帰って来るといふ人がいるのであれば、その辺で一旦区切ってみるというやり方もある。そうすれば、羅臼温泉コースも全体が5になるわけではなく、下の方は2または3になり、上に行くと4、5というように上がっていくというグレードの付け方になる。場合によってはそういう事も考えても良いかと思う。

敷田座長

グレーディングの問題は、グレーディングの精度を上げれば上げるほど判断に専門知識が必要となってくる。例えば、いくつかのモデルのような使い方を提示するなど、その利用者の能力に合わせた情報提供に移行する必要があるという指摘だったと思う。

他に意見はあるか。無ければ5番の中期的な課題、実質的な最後の議題になるが、非常に重要な2項目である。中期的な課題の1番、知床国立公園のあり方に関する検討。これは重要な検討が皆様の間で行われたものですので、是非共有をお願いしたい。環境省より説明願う。

【議題5. 中長期的な課題（1）知床国立公園利用の在り方に関する検討について】

事務局 環境省 守

知床国立公園利用のあり方に関する懇談会について説明（資料5-1）

敷田座長

今の説明に関連した質問、意見はあるか。地域の関係者の方は参加された方も多いと思うが、改めて何かあるか。ワーキングの委員からは何かあるか。ワーキングの委員は参加していない、議事録も回っていないため理解が難しいと思う。今年度は3回懇談会があるが、例えば開催回数の内、1回をこの検討会議と連動すればワーキングの委員も参加できる。議事録を配布するよりもそちらの方が良いと思うが如何か。

事務局 環境省 石川

第1回懇談会を開催した際に参加者の方々に説明したとおり、まずは地元である程度の議論をして取りまとめたい。今年度はまだ第1回が終わった段階であり、第2回、第3回と続く。次回の検討会議には経過を含めてきちんとご報告させていただく。この懇談会については、先ず地元の関係者の皆様に話し合いたいというのが事務局の思いである。

敷田座長

主張はごもっともだと思う。ワーキンググループの委員の皆様には、メーリングリストでの共有が最適だと思う。議事録というよりもどういう方向で議論が進んでいるかという報告をお願いする。来年度以降は委員全員が参加する必要は無いかもしれないが、タイミ

ングを合わせていただければ参加できると思う。その場合には地元の皆様優先で構わない。逆にワーキングの委員は地元の皆さんの意見を学ぶ必要があるため、オブザーバーでの参加、発言しない参加で構わないと思う。特に来年度以降の検討をお願いします。

1 番について他に無ければ 2 番の構成員以外の検討会議への参加についてへ進む。事務局より何か提案はあるか。特に無ければ私から説明する。構成員以外という表現がわかりにくい、エコツーリズムワーキンググループを構成している専門家の問題であると考えてほしい。現在、それぞれの専門分野、例えば愛甲委員は公園利用、中川委員は知床博物館の元館長であるので知床の自然全体についての認識が深い、それから間野委員は自然利用、特にヒグマについては非常に詳しく、エゾシカについても理解ができる。というように、それぞれの専門分野を持って参加していただいている。一方、現在ここで議論している内容を見ると、観光分野の議論が非常に多くある。私の専門分野でもあるが、それはあくまでもその中の一部であり、例えばマーケティングやブランディングについては必要な専門家を揃えることができていない。その問題に対応するために今の委員にプラスして科学委員会から特別招聘することができる仕組みがある。それ以外の専門家に参加していただく必要があれば招聘してはどうかという私からの提案である。特に地域外の観光関係者の参加は、この中で閉じがちな情報を共有する意味もある。また、最近は観光庁でも様々な事業を行っており、観光庁の参加も視野に入ると思う。皆様から特に大きい異論がなければ事務局では対応していただけるということである。今後、事務局とワーキングの我々で人選していきたいが如何か。特に意見が無ければ進めさせていただきたい。それでは、事務局と私共委員メンバーで相談をさせていただき、科学委員会にも報告した上で可能であれば来年度以降、地域外からの観光関係者プラス観光庁の関係者に入っていただきたいと考えているのでよろしくをお願いします。

6 番その他は 2 項目ある。事務局から説明願う。

【議事 6. その他（1）第 41 回世界遺産委員会決議の対応について】

事務局 環境省 太田

第 41 回世界遺産委員会決議に係る対応について説明（資料 6-1-1）

第 41 回世界遺産委員会決議（知床）英文及び和文（資料 6-1-2）

敷田座長

日英の対訳が付いているが、英語の勉強してくれということではない。こういう重要な話がこの会議の場以外でも進んでいるという事を認識してほしい。基本的ここは世界遺産という枠組みの中で管理が進められている事を認識していただければ十分である。事務局から他に補足はあるか。特に無ければ(2)適正利用・エコツーリズム検討会議関係設置要綱等の改訂について説明願う。

【議事 6. その他（2）適正利用・エコツーリズム検討会議関係設置要綱等の改訂について】

事務局 環境省 守

知床世界自然遺産地域科学委員会適正利用・エコツーリズムワーキンググループの設置について 改訂案（資料 6-2-1）

知床世界自然遺産地域連絡会議適正利用・エコツーリズム部会設置要綱 改訂案を説明（資料 6-2-2）

知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議の設置について 改訂案を説明（資料 6-2-3）

知床エコツーリズム戦略 付属資料 4 検討会議構成員 改訂案を説明（資料 6-2-4）

敷田座長

資料が非常に複雑で申し訳ない。委員の参加に関わる問題である。皆様の関係団体の参加に関する問題を一旦整理させていただいたという事であり、何かを大幅に改訂するという内容では無い。

座長の私から 1 点お願いがある。今回専門家の委員の欠席が 3 名あり、大変申し訳なく思っている。こちらへ来るまでの前後日程も含めてご自身の予定と重なって来られないという事である。決して参加をしたくないという事では無い。むしろ積極的に参加して議論したいと考えている委員ばかりである。しかし、一方でそれぞれ皆様の都合がある。皆様の承認がいただければ、この会議と予定が重なっていない場合に限り、スカイプ等のアプリを使い、インターネット経由での会議への参加を認めてほしい。地域の皆様、利害関係者とは違い、ワーキングの私たちは基本的に客観的なコメントをする立場にある。そのため、臨場感が多少無くても皆様にはメッセージが伝わると考えている。よろしければ早くて次回会議以降に欠席の委員で時間帯が合う委員について、向こうの様子をスクリーンに映した上でこちらの様子を聞いていただき、向こうからコメントを正式にいただくようにしたい。そのコメントについては参加しているのと同等に扱うということで進めさせてほしい。実物がいないと困るという方がいなければ。

斜里町如何か。斜里町の議会もインターネットで中継されている。羅臼もそうである。こういう時代であるので、ネット経由での参加という事にはなるが許容していただければと思う。それでは事務局は対応の準備をお願いします。一番安定した方法はスカイプのような皆様が良くお使いのものである。初回から上手くいくとは限らないが、多様な参加手段があった方が良いと思うのでお願いします。

これは私からの提案であるが、可能であれば、それが上手くいった次の段階で、この会議の様子もフェイスブックなどでリアル中継をしても構わないと思う。記録を YouTube にあげるという手段も今後行っても良いと思っている。基本的にオープンな環境で議論するという事に意味がある。その第一歩だと考えてほしい。そういうところに自分が登場するのは良くないという意見もあると思うため、それは今日明日次回からすぐという訳では無

い。第一歩として委員の私たちの参加をネット経由で認めていただければ次回以降準備したいと思うが如何か。

中川委員

確認だが、あくまでもここに参加していただく日程調整をきちんと行って、どうしても来られない場合という事でよろしいか。

敷田座長

その通りである。来て欲しくないというメッセージではない。参加ができない場合に限りという条件がつく。ワーキングの委員は特に無いか。それでは次回以降に進めさせていただきたいと思う。ありがとうございます。

以上で本日の議事 1 から 6 ついて全て終えたいと思うが、全体を通して何かコメント、意見はあるか。特に無ければ最後にもう一度おさらい、振り返り終了したいと思う。

本日は 29 年度第 1 回の適正利用エコツアーリズム検討会議の参加ありがとうございました。

議事の内容は、実施部会からの報告が 2 件あった。まず、赤岩地区昆布ツアー部会からの報告があった。こちらは、今年度催行したが参加者がいなかった。5 年間でのこのツアーのあり方について引き続き検討していくということである。

2 番目の外国人旅行者向けの情報発信は、この部会で順調に発信を続けていただいている。将来的には外国人の利用が非常に増えていくことから、さらに促進をしてほしいという皆様からの意見であった。

3 番目の個別部会からの報告は 5 項目であった。知床沼についての取り組みについてはモニタリングに触れていただき、モニタリングの負担は極力関係者で協力していくという基本姿勢は変わらないが、今後のモニタリングのあり方については知床沼以外の検討をする余地があるという事を改めて確認した。

カムイワッカ地区の取り組みについては、工事が非常に複雑で長期に渡っており、今後の整理の仕方について改めてカムイワッカ部会で検討していただくことになると思う。

厳冬期の知床五湖エコツアーについては、斜里町からも付加的な説明があり、今後の除雪の問題、それから根本的な利用の問題について、次回の検討会議で状況報告を含めてお願いした。承認された内容については、冬期の静寂感がある中でのコントロールされた利用でガイドツアーになっている。誰でもが使えるという状況では承認されていないので、利用形態に変更がある場合には早急に対応していただく。

4 番目の長期モニタリングについては長期モニタリングの計画の見直しを事務局から説明していただいた。平成 28 年度の利用状況調査も合わせて報告いただいた。これについては、羅臼山岳会の佐々木氏、知床羅臼観光船協議会の長谷川氏から、利用の情報発信や利用の促進、また利用可能なことの説明について、もう少し考えて欲しいという話があった。これは個別に考えるのではなく全体でも考えていく事である。

5番目の中期的な課題については、知床国立公園の利用のあり方に関する懇談会での検討が進んでいるという報告であった。地域の方が参加する会議であり、ワーキングの委員は来年度以降の参加や傍聴も検討し、今年度はメーリングリストで共有していただくという事になった。

構成員以外の検討会議への参加については、専門家委員と同じ扱いで地域外の観光関係者、観光庁の参加を事務局とワーキング委員で検討するという事になった。

その他の項目として、世界遺産決議についてと設置要綱の改訂についての報告があった。

付随して委員のスカイプによる会議参加を次回以降行うことを承認いただいた。どうしても欠席される委員について、スカイプ等のアプリでの参加を認めていただく事にしたいと思う。以上で第1回の検討会議を終了したい。

2回目のアナウンスも含めて事務局から事務連絡願う。

事務局 環境省 石川

敷田座長の長時間に渡る議事進行に感謝する。

第2回の会議については現在日程調整中である。決まり次第皆様に報告する。

最後に釧路自然環境事務所長の安田よりご挨拶申し上げます。

事務局 環境省 安田所長

本日は座長をはじめ委員の方々、それから大変多くの関係機関の方々に出席していただき、長時間の議論していただいたことに感謝申し上げます。この会議は、知床の保全と持続的な利用を目指すために非常に重要な会議であり、地域の方々の声を沢山聞ける場だと思っている。様々な課題も出していただいた。事務局として継続して検討していきたいと思っている。

敷田座長

ご参加ありがとうございました。次回以降もどうぞよろしくお願い致します。

-----終了-----